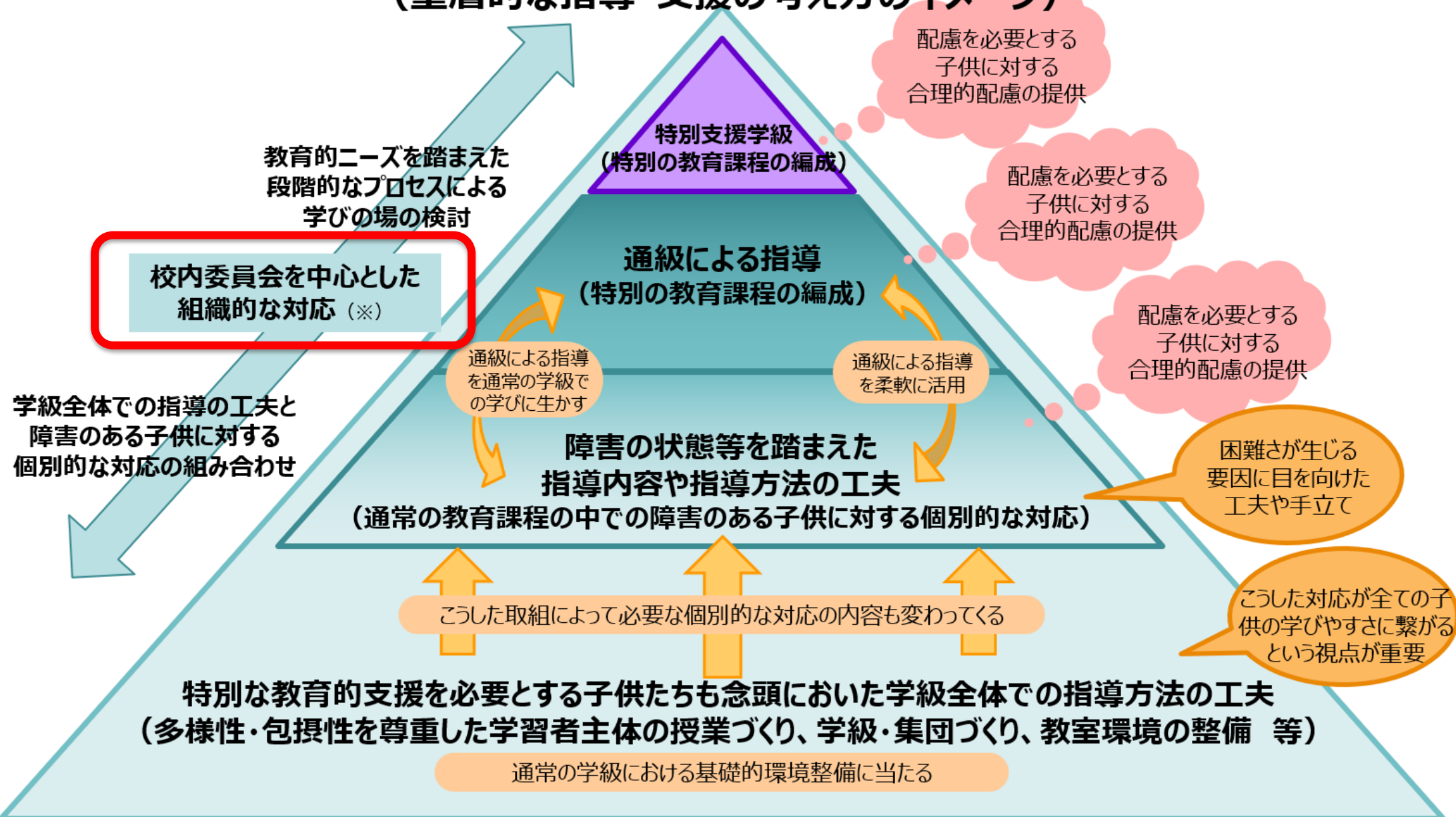


小中学校の多様な子供たちへの支援 ～外部資源を活用した支援～

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官 近藤 修史

小・中学校に在籍する障害のある子供たちの学習活動の充実に向けた方策 (重層的な指導・支援の考え方のイメージ)



※校長のリーダーシップの下、校内委員会を中心とした教育支援体制の構築・運営がなされ、組織的に対応していくことが重要。また対応に当たっては、特別支援学校のセンター的機能の活用や関係機関との連携、研修を通じた教師の専門性向上などの取組も必要。

(参考) 特別支援学級の対象： 知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害

通級による指導の対象： 言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害、注意欠陥多動性障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱

校内委員会の機能強化について

各学校においては、**発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の実態把握や支援方策の検討等を行うため、校内に特別支援教育に関する委員会を設置することとされている。**障害のある子供も含めた多様な子供が通常の学級に在籍していることを前提に、**校長のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターを核として、全校的な支援体制を確立する必要がある。**

主な機能・役割

児童等の障害による学習上又は生活上の困難の状態及び教育的ニーズを把握する。その際、学級担任等の気づきを積極的に吸い上げるなど、**幅広く学校全体で特別な教育的支援を必要としている児童等の把握と状況の共有を図る。**

児童等の教育的ニーズを踏まえ、必要な支援を把握し対応策を検討する。その際、

- ・ **まず通常の学級において、障害のある児童生徒も念頭に置いた授業の工夫を行うことが重要**
- ・ ICTを含む**合理的配慮の提供**や特別支援教育支援員の配置、外部専門家の活用など、**通常の学級の中でできる方策を十分に検討すべき**
- ・ その上で、通常の学級では十分に学べない場合には、特別の教育課程が編成できる通級による指導や特別支援学級の必要性を検討していくという**段階的なプロセスによる学びの場の検討が大切**

具体的な支援内容の検討の際、**必要に応じて個々の児童等に関わりのある者で少人数の「ケース会議」を開催すること**も考えられる。**ケース会議の内容は校内委員会に報告され、支援内容について教職員間の共通理解を図ることが重要。**

支援内容の決定後も、児童等の状態や支援内容の評価を行い、必要な見直しを行う。

校内委員会にかかる課題

- 校内委員会は、公立の小中高等学校においてはほぼ全ての学校で設置されているものの、調査結果からは、**校内委員会の機能が十分に発揮されていないなど、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態把握等に学校全体で取り組めていない状況**が見受けられる。
- 各学校において、**校内委員会自体が形骸化していないかなど在り方を再点検し、校内委員会を中心とした組織的な対応**を可能とする体制を確立することが必要である。

小中高等学校の通常の学級に在籍する児童生徒について、「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒のうち、**校内委員会**において**特別な教育的支援が必要と判断されている児童生徒**の割合（推定値）

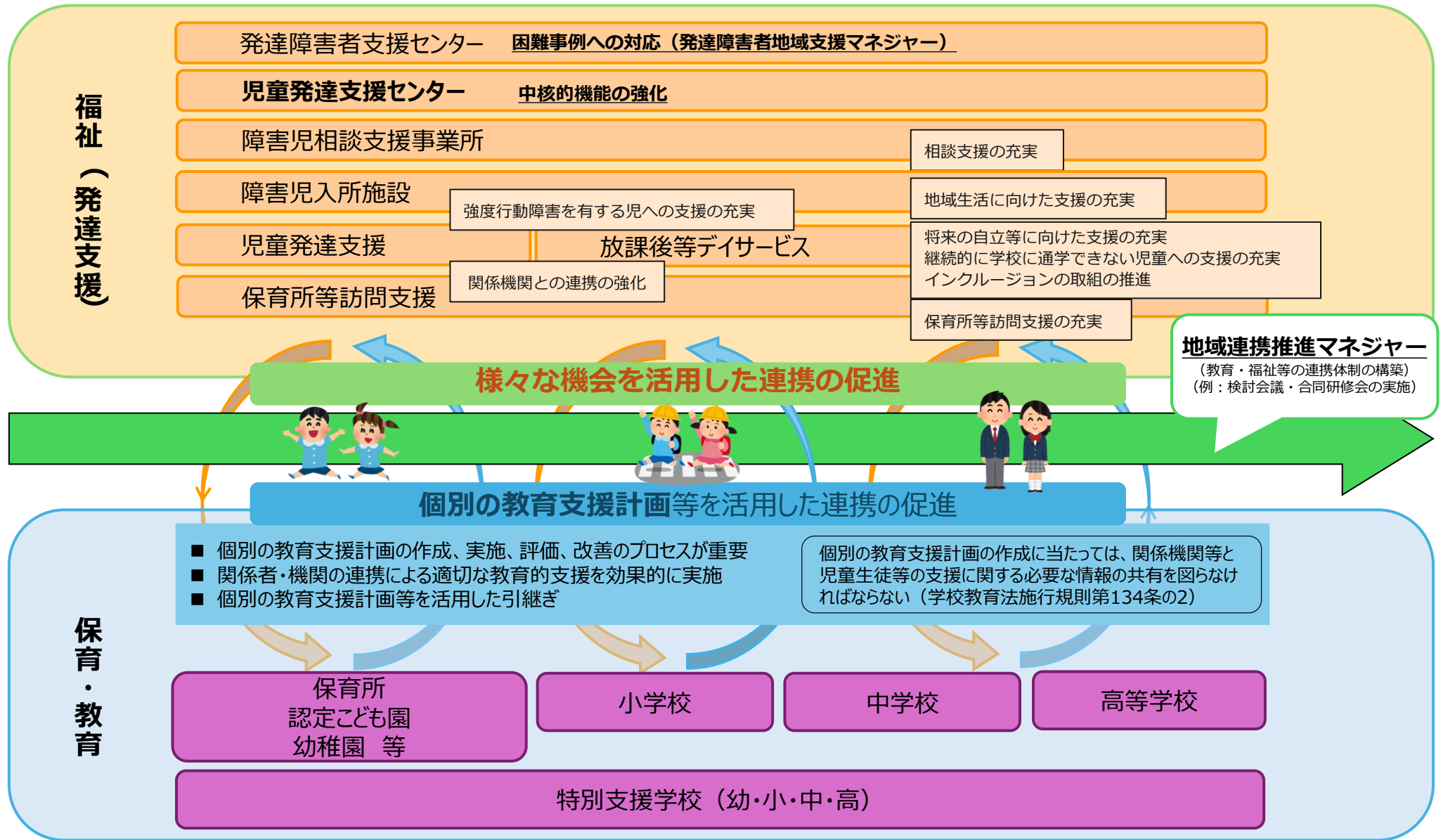
小学校・中学校 28.7%

高等学校 20.3%

（出典）令和4年度通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査

学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒であっても、特別な教育的支援の必要について、そもそも、校内委員会での検討自体がなされていないことが考えられる。

(詳細)「地域における教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）」



国による情報発信
支援機関への支援など

国立障害者リハビリテーションセンター
自立支援局秩父学園

自治体や保育所・幼稚園、放課後等デイサービス等に職員を派遣し、
発達の気になる児童の支援者に向けた支援を実施

自治体の支援体制状況の把握や好事例の横展開

教育福祉連携を推進する研修等

国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センター



国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター

【話題提供の共通点】

学校だけでは対応が難しい多様な教育的ニーズに対して、地域の専門人材や関係機関との連携によって子供の学びや育ちを支えている。

【課 題】

通常の学級における多様性・包摂性を尊重した学習者主体の授業づくりを基盤としながら、個別最適な支援の充実を進めることが重要。その際、**学校内の取組だけでなく、外部資源との連携をどのように持続可能な仕組みとして構築していけばよいか。**

【話題提供者へ】

＜松尾先生＞ 支援員の役割の明確化、研修機会の確保、専門性向上

- ・オンライン研修によって実際の支援行動はどのように変化したのか。
- ・支援員に必要な資質・能力をどのように整理しているか。

＜野田先生＞ 学校との情報共有、学習評価、進学・就労への移行

- ・学校との情報共有でうまくいった事例は何か。必要な要素は何か。
- ・支援機関と学校が共有すべき「子供の姿」とは何か。

＜小池先生＞ 専門的知見は重要である一方、その成果を通常の学級にどう還元するか、担任が活用可能な支援方法にどう翻訳するか

- ・個別支援で有効だった取組を学級全体の学びに生かすとしたら何が必要だと考えるか。
- ・ICTや遠隔支援は今後どのような可能性を持つか。